雅が南方に於ては kiu と發音する糾字を、北方にて ćiu, ćü と音ずるを聞きて、特に之に都由切なる音注を施したりと見るも強ち理なきに非るべし、尤も都由切は tyu にして（tu には非ず）ćiu, ćü にはあらざれども、此の場合に於ては兩音は極めて近似せるものなればかゝる相異は怪しむに足らざる可く、此の點に就いては ćeri と teri, ćerikan と terikan, terin と ćara とが同一音を寫したるものなりとせらるゝ學士の深く咎められざる所なるべきを信じて疑はず。

右に論ずる所にして幸に一片の理ありとすれば、黑韃事略の記事は直ちに遼金の乢字の音及び義に及ぼし得べきに非るべく、彼と此とは全く關係なき記事なりとも考へられざるに非ず、從がつて前項所說の乢軍なるものは、五十騎を以て編成の單位としたるものには非ず、ともいひ得べし。然れども余は單に彭大雅が訪蒙の當時北方地方に於て糾字を ćü 即ち都由切に近く音じたるものなるべしとの想像によりてのみ學士の推斷を疑はんとするにはあらず、かりに學士の說に從がひて糾は乢の誤寫なりとするも然も尙ほ之が遼金の乢軍と相關せる語なりとは斷じ得べからざるを思ふものなり、何となれば

第一、乢卽ち tyu（糾を誤寫なりとして）なる語は、黑韃事略によれば單に五十騎より成れる蒙古の一隊を稱ぶ語を音寫したるに過ぎざればなり、學士は乢を軍の義なりと解し、之が編成の單位が五十騎なりしより乢軍と呼びしものならんと說かるれど、此の如きは蒙古語の糾もしくは乢と遼金の乢とが同一語（たゞ音の同じきに止まらず意義も同一なるの意）なりとの假定の上に立てる議論にして、此の假定を生じたる理由に至りては、深く說かるゝ所なく、只だ蒙古の乢（糾は誤なりとして）は「蒙古固有の制にあらずして、寧ろ金の制を受けたるものなるべきを乢の字を用ゆるによりて推測に